

「学びの変革」実現ビジョン -第7次福島県総合教育計画及び「学びの変革推進プラン」の実現に向けて-

(1) 第7次福島県総合教育計画に掲げられた理念の再確認

令和4年7月7日 福島県教育委員会教育長 大沼博文

目指すべき姿	: 個人と社会のWell-beingの実現
育成したい人間像	: 急激な社会の変化の中で、自分の人生を切り拓くたくましさを持ち、多様な個性をいかし、対話と協働を通して、社会や地域を創造することができる人
学びの方向性	: 「福島ならではの」教育の充実 → 「多様性を力に変える教育」「福島を生きる」教育

①社会全体や本県を取り巻く課題との関係

日本全体や世界規模での課題：少子高齢化、DX、温暖化、国際情勢の急激な変化、原油高騰 etc
福島県における課題：人口減少、震災・原子力災害、風評被害、地域や世代間の分断、相次ぐ自然災害etc

→ VUCA (Volatility【変動性】、Uncertainty【不確実性】、Complexity【複雑性】、Ambiguity【曖昧性】) の時代と呼ばれる先行きが不透明な世界にあって、変化に対応するだけでなく、むしろ新たな変革を生み出す人材の育成が求められている。

②中央教育審議会やOECD等における議論

- ・「変革を起こすコンピテンシー」(OECD Education 2030プロジェクト)
①新たな価値を創造する力、②対立やジレンマを克服する力、③責任ある行動をとる力
 - ・“「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実”(令和3年1月 中央教育審議会答申)
＝「多様な個性をいかし」「対話と協働を通して」「多様性を力に変える教育」
 - ・SDGs (Sustainable Development Goals) : 誰一人取り残さない、多様性と包摂性のある持続可能な社会の実現
- 7次計画で掲げられた育成したい人間像や学びの方向性は、世界や日本の教育の潮流と軌を一にしており、こうした大きな文脈の中で捉えることが必要。

(2) 「学びの変革」と「学校の在り方の変革」を進める上で重視すべき視点

①「学びの変革」

- ✓ AIが社会の在り方を変える時代において、人間の強みである文章や情報を正確に読み解き対話する力、教科固有の見方・考え方を働かせて考え表現する力、対話や協働を通じ新しい解や納得解を生み出す力、非認知能力を育成することがますます重要。
- ✓ 最も重要なのは「授業」。福島の教師がこれまで積み上げてきた豊かな実践の上に立ちながら、「多様な個性」をいかし、「対話と協働」を通して、「多様性を力に変える」教育へと教育の質的な転換を成し遂げることが求められている。

②「学校の在り方の変革」

- ✓ 子どもを未熟な受け身の存在としてだけ見るのではなく、「子どもは一人一人が未来の創り手」、「全ての子どもは学びたがっているし学び力を持っている」、「子どもは一人一人違っているし、違っていい」という子ども観を根幹に据え変革を進めていくことが必要。
- ✓ 学校を子どもにとっても教職員にとってもWell-beingが実現された場に。一人一人の違いと自由が尊重され、個性と能力を伸長でき、能動的市民性(ティフソップ)を身につけていくことができるような学校、教職員が本来担うべき仕事に集中できる学校へと変革する必要。

(3) 変革を実現するために

県教委 : 「福島ならではの」教育を実現するための体制整備に取り組む

各教職員: 7次計画の目指すこと、理念をくりかえし咀嚼(そしゃく)し、本質をしっかりとつかみ、そこから照らして一つ一つの施策や改革の「意味」を考えていただきたい。各教職員の個性をいかし、対話と協働を重視しながら、思い切った「変革」へ向けた具体的な取組を一つ一つ実現していただきたい。

※ 教育の質的転換は「全く新しい何か」ではなく、今までの学校教育の延長線上にあるもの